

ひがしあざ 議会だより

2023 No.313
10月号

チェンジャーバンド 音楽が若さの秘訣♪

12ページにて紹介

- 新しい地域公共交通の導入へ.....2~3
- 令和4年度決算審査.....4~6
- 一般質問 かがやくまちのひと.....8~11
-12



議会HP

一般会計補正予算等を可決

3億1,400万円

第3回
定例会

新しい地域公共交通の導入へ

定例会の
あらまし

令和5年第3回定例会を9月7日～27日までのほか、補正予算6件を含む計18件を審議した結果、

21日間の日程で開催し、令和4年度一般会計歳入歳出決算認定全て原案どおり可決しました。

Pickup ① 10人乗りのバスで実験



10人乗りのワゴン車を活用し、新しい公共交通の実験を稲取地区内で行う。

実施期間：令和5年11月1日～12月27日

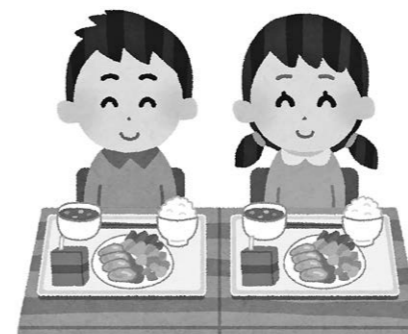
バス停：30箇所（予定）

運行時間：10：00～16：30

Pickup ③ 給食費を応援

220万円

物価高騰に伴い町内の幼小中学校の給食食材費への助成を行う。



Pickup ④ 幼稚園を快適に

327万円

ひがしいず幼稚園の廊下に雨避けビニールカーテンを設置する。



Pickup ② マイカーを使った乗り合い型交通



熱川・片瀬・白田地区においてマイカー乗り合い型公共交通を行う。移動したい住民と自分のお出かけついでに誰かを乗つけることができる住民ドライバーのマッチングサービス。

運用開始：令和6年2月1日（予定）

利用料金：200円／1回

Pickup ⑤ LEDで明るく

123万円

稲取駅前通り商店街の街路灯25基をLEDに取り替える。



Pickup ⑥ 図書館に寄附

20万円

児童書の購入のために匿名の寄附をいただきました。ありがとうございました。



決算審査
特別委員会

全会一致で決算を認定 事業の執行状況と適

第3回定例会で提出された令和4年度一般会計・特別会計の決算は、議会に付託し、4日間にわたり審査した結果、以下の意見を付し決算を認定し

切な運営をチェック

選出の監査委員を除く11名の議員で構成する決算審査特別委員
ました。



提言1 専門職の適切な配置を



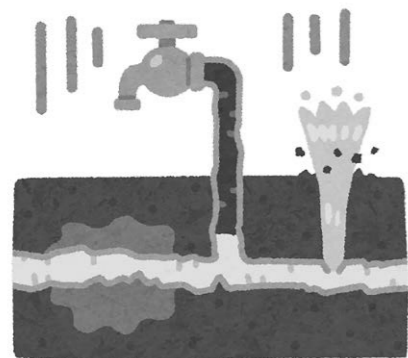
健康づくり事業や水道事業など技術職員の不足により、過重な負担が続いている。今後の事業継続と充実のため、専門職員の採用や人材育成に鋭意努力し、適正な配置を進められたい。

提言2 町民が取り組みやすいごみ分別を

びん類の分別徹底や生ごみの堆肥化推進など、様々な取り組みは進めているが、ごみ処理対策は町が行うだけでなく、町民が自ら取り組むものであることを鑑みれば、分別等に関する基本的な方針を確立されたい。



提言3 水道事業継続維持のための調査・研究を



現在の水道事業会計では、今後、膨大な費用が見込まれる改修や白田浄水場の更新に対応できない。加えて、町民や事業者などに負担を求めることにも限界がある。人口が減少し地域経済が縮小している中、水道事業の維持継続のため、公費負担のあり方を調査・研究されたい。

提言4 町観光協会補助金については、経費の内訳を明瞭にして事業の可視化に努められたい。

提言5 汚水処理場の使用料、町道及び普通河川の占用料の適正化に着手されたい。

提言6 土地貸付料は、土地取引価格等を参考に算定した単価に基づいて、適正に行われるよう改善を図られたい。

会計別決算額

会計の種類		歳入	歳出
一般会計		65億6,695万円	61億1,125万円
特別会計	国民健康保険	17億9,645万円	17億8,658万円
	後期高齢者医療	2億1,074万円	2億1,031万円
	介護保険	13億7,866万円	13億3,014万円
	稲取財産区	64万円	59万円
	風力発電事業	761万円	490万円
幼児教育アドバイザー共同設置事業		217万円	209万円

	総収益	総費用
水道事業	4億4,217万円	4億4,690万円

決算審査特別委員会

事業の効果検証を重視し審査

多様な質疑がありましたので、ピックアップしてご紹介いたします。

ふるさと納税

Q ふるさと納税寄附金が大幅に増加した要因は。

A プロジェクトチーム等を発足させ、観光協会関係者とも連携を進めた。紙の感謝券及び旅館独自の宿泊補助券の発行、自動販売機の導入等も、ふるさと納税寄附金の増加に繋がった。

2次交通実証実験

Q 2次交通に関するシェアカーの実証事業の検証結果は。

A 町内者の利用が想定よりも多く、観光施設や病院への利用が見られた。

ファミリーサポートセンター

Q ファミリーサポートセンター事業の実施状況及び今後については。

A 令和4年度の実績は1件、依頼会員の新規登録が2件となっている。実績が増えない中でも、新規登録や問い合わせなどがあるため、継続して事業を実施し

町観光協会補助

Q 町観光協会補助金について成果説明書への内容の記載がされていない。内訳はどのようになっているか。また、実績を踏まえ、補助金で支出することが適当か。

A 補助金額は、38,583,000円で、事務局費22,043,859円、インバウンド等対策事業費7,510,862円、観光行事等共同宣伝事業費3,502,438円、情報発信強化事業費1,995,180円及び観光情報資料等事業費1,807,360円が主な内訳となる。監査委員からの指摘もあるので、補助金の支出について検討していきたい。

唐沢污水处理場

Q 唐沢污水处理場維持管理事業について、前年度に比べて支出が増えているが、理由は。また、使用料の値上げは考えているのか。

A ばつ気ブロー及び循環ポンプを修繕しており、これにより前年度に比べて支出が多かった。光熱水費も、電気料等の高騰により40万円ほど多くなった。使用料については、令和元年8月に値上げを行っている。

非常備消防事務事業

Q 消防団の統合や、災害での出動が多くなっている現状について、話し合う機会は持たれているか。

A 消防団の統合は、区との関係や対象年齢等の問題があり、継続課題である。

国民健康保険

Q 特定保健指導について、動機づけ支援・積極的支援の実施率が減少している要因は。

A 保健師の退職により対応人数が減ったこと、減員を補うために予定した委託予定業者から、急遽対応できないと断られたため。

介護保険

Q 総合相談業務について、相談件数の中に一人暮らしの方はどの程度いるか。また、漠然とした相談が増えているように感じている。他の部署との連携が重要になってくるのでは。

A 相談件数2,135件中、1,205件。重層的な部分について、関連する部署が協力していければと考える。

水道事業

Q 令和4年度の純利益がマイナスになっており、監査委員から料金改定に向けて準備するよう指摘されているが。

A 決算内容は純損失になり、管路の更新も避けては通れない。料金改定は、現在の社会状況や経済状況を鑑み、難しい状況だが必要と認識している。



決算審査特別委員会報告書については東伊豆町ホームページにて掲載 https://www.town.higashiizu.shizuoka.jp/ ホーム > 町政・議会 > 議会 > 予算・決算審査特別委員会報告



○ 賛成 × 反対 欠 欠席 ※議長は採決に加わらない

第3回定例会の議案と各議員の賛否

Table with columns for '議案名', '採決結果', and 12 council members: 山田直志, 定居利子, 内山慎一, 村木脩, 須佐衛, 西塚孝男, 栗原京子, 稲葉義仁, 立井政明, 楠山節雄, 鈴木伸和, 山田豪彦.



栗原 京子 議員

Q ワクチン接種費用の助成は

A 国の動向を踏まえて対応する

Q 昨年末、子宮頸がんワクチン（HPVワクチン）の男性への接種が日本でも承認された。周知のための情報発信をする考えは。

A 自治体としては安全性など見極めてから行動するべきと考える。

Q 世界的には男女共の接種が進んでいるが。

A 男性へのHPVワクチン接種の助成については、日本国内では7区市町村で行われているが、静岡県内では、まだ実例が無い。



国や自治体が発信する正しい情報を参考に

そのほかの質問

Q 高齢者の聞こえをサポートするため助聴器の導入は

A よりよいコミュニケーションが図られる可能性もあり、導入を検討する



Q 接種を希望する人への費用の助成は。

A しっかりと国の動向を踏まえて対応したい。

Q 町内の带状疱疹の罹患患者数の状況は。

A やや増加傾向にある。CM放送後はワクチンの問い合わせも増えている。

Q ワクチンの相談や副反応が不安な場合の町のサポート体制は。

A 保健福祉センターで対応したい。

Q 带状疱疹ワクチンの接種費用の助成は。

A 罹患患者数や社会状況を鑑み、実施に向けて検討すべきと認識している。



稲葉 義仁 議員

Q 各区からの要望への対応は

A 地区担当と現地を確認し対応する形に変更

Q どの程度の要望があがっているのか。

A 令和4年度は道路関係で要望80件に対し12件を対応した。民地がらみや物理的な問題等、対応不能なものについてはその旨を回答している。

Q 未対応案件の内容は。

A 対応不能なものが20件、経過観察が10件、38件が未対応の案件となる。

Q 要望に対してどのように対応しているのか。

A 従来は



要望に対する問題意識の共有が大切

そのほかの質問

Q 熱川大橋を徒歩で通行する観光客が目に付くが安全対策は

A 危険性は認識しているが、看板設置や照明等、対応を県と協議していく



Q 課に振り分け検討、回答をとりまとめ年度末に各区に報告していたが、対応方法に関する説明や相互理解が十分でない印象を受けた。そのため今年度からは地区担当者と一緒に現地の状況を確認し、問題意識を共有し対応の方向性を出していくという形をとるよう指示を出したところである。

Q 問題意識の共有を図るといことは、信頼感の醸成や町民との協働・シェアリングといった観点からも重要と考えるが。

A 行政が勝手にやるという意識を持ち、一緒に確認し共通認識を持つて進めていくという気運を広げていきたい。

Q 車道外側線の整備は

A 順次整備を図っていく



不明瞭な車道外側線の現状

Q 学校周辺は児童生徒、地域住民の安全確保のため。

A 今後の整備内容については、令和元年度から徐々にではあるが整備を図っており、今年度は熱川温泉病院付近と片瀬地区の一部を予定している。今後は熱川小学校周辺や旧稲取幼稚園付近など、通学路を中心に実施していきたい。



楠山 節雄 議員

そのほかの質問

Q 町道湯ヶ岡赤川線の整備は

A 課題は多いが早期実現を目指す

Q 必要に応じ積極的に行う



Q 今後の整備内容。

A 車道外側線については、児童生徒は交通弱者として優先度を上げていく考えはある。

Q 地域貢献を考えている個人や団体に資材提供をして整備を図る考えは。

A インフラ整備におけるコスト削減や早期対応が図れる可能性もある中で、安全面を担保できることを条件に検討していきたい。

Q 膨大な延長を考えると町の費用負担だけでなく自助共助の考えが必要と考えるが。

A 施行者及び利用者の安全や資材の問題、法的な側面も踏まえ検討していく。

Q 幼稚園給食の食器が大きすぎないか

A 様々な視点から検討した結果である



サイズの合った食器で給食を

Q 幼稚園では、食器が大きすぎてごはんや汁物の食器を持って、置いたまま食べている園児がいた。なぜ子どもに合った食器に変えないのか。

A 給食の運用や施設整備については令和3年度から検討してきた。お試し給食での園児の様子も見て様々な視点から協議した結果、現在の食器で十分使用可能であると確認した。

Q 「令和5年度東伊豆町の教育」の中では、幼稚園教育は、生涯にわた



西塚 孝男 議員



Q 令和5年度東伊豆町の教育」の中では、幼稚園教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な場であると書いているが、茶碗の持ち方・箸の使い方は、日本人の食事マナーとして大変良いことなのでしっかりと伝えていくべきと考える。

A 食育については年中後半から年長になる頃には、ほとんどの子がしっかり食べられるようになってくること。また食器が大きい方がごぼしにくい、ごはんの量が少なく見え、食べ残しがなくなること等もあり、あえて小さな食器に変更する必要はないと考えた。サイズ変更には必要な洗浄機の更新には多額の費用が必要となり、だからというわけではないが、それであればしっかりと指導していければ良いのではとも考えている。



須佐 衛 議員

Q 公共交通実証実験について、周知が足りていないと思うが

A バス停の設置箇所が確定しだい周知を図っていく



Q 11月1日からスタートすることだが、スマホの操作方法等、住民の理解に時間がかかると思定されるが。



11月と12月に実施されるデマンドバス運行 (写真は長野県塩尻市の「のるーと」)

Q 子どもの病気やケガの時の救急体制は。 A 県が子ども救急電話相談を行っている。発熱やケガで困っている時に、小児科医や看護師が電話で応じていきたい。

そのほかの質問 Q ひきこもり状態の方への支援体制は A 社協、県の機関も含め重層的な体制を整えている Q 障がい者施設への業務発注を増やせないか A 可能性を十分引き出せるよう配慮して行きたい



山田 豪彦 議員

Q 今後協力隊の活躍を求める分野は

A 雑のつるし飾りの文化継承等での募集を検討



Q 地域おこし協力隊にどのような事を期待しているか。 A 町外からの移住者なので、今まで気づかなかった魅力を引き出し、町を活性化させてくれる事を期待している。 Q 卒業後の定住についてどのようになっているか。 A 町外からの移住者なので、今までは気づかなかった魅力を引き出し、町を活性化させてくれる事を期待している。



※総務省HPより 若者たちとふるさとを元気に

Q 当然のことながら町としても定住を望んでいる。町民にも協力隊のことをよく知っていただけよう、活動以外のところでも交流できるような場面を用意していくので、温かい目で見守っていただきたい。 Q 国からの特別地方交付税の措置もあり、財源が厳しい当町にとって誠にありがたい制度だと考へる。優秀な人材が集まるよう工夫している事は、人と人の繋がりでこの町を発信してくれているOBとも協力して、住みやすさ、活動のしやすさをアピールしている。

そのほかの質問 Q 旧稲取幼稚園の活用と今後の展開は A 町民からの提案をもとに検討会を開き精査しており、次年度から具体的な運用に入る予定

Q 出産・子育ての現状は

A 町でやること、連携して進めることをしっかり検討する



山田 直志 議員



病児保育「かるがも」 下田メディカルセンター内

Q 子どもはこの医療機関で出産されているか。 A 令和4年度は、上山レディースクリニック9人、順天堂大学病院5人、白井医院2人、県内病院2人、県外病院2人となっている。 Q 子どもの病気やケガの時の救急体制は。 A 県が子ども救急電話相談を行っている。発熱やケガで困っている時に、小児科医や看護師が電話で応じていきたい。

Q 「東伊豆町版骨太の方針」での防災体制は

A できる課題から解決していきたい



鈴木 伸和 議員



イエローゾーンに災害対策本部が存在

Q 防災体制の強化を図る、最優先課題は。 A どれも重要なポイントであり、何かを優先的にということではなく、できる課題から解決をしていきたい。また、町民の皆様への防災意識向上も重要なポイントである。 Q 防災・減災の施策とまちづくり一体の整備とはどういうイメージか。 A 昨今の激甚被害の頻発等により、従来のハードの強化を考えたうえで、ソフトの強化を考えたことが重要。 Q 見直し案を基に議論を広げていく、という令和5年度のスケジュールは。 A まずは、見直し案の取りまとめを行う。その後、その案の議論を広げていく。

そのほかの質問 Q 稲取漁港周辺整備事業について A 新たな振興体制を構築していく

かがやく まちのひと

Vol.15

今回は、結成30周年を迎えたチャンジーバンド代表古賀廣明さん(アルトサクソ担当/83歳)にお話を伺いました。

※チャンジーバンドは、演奏者と歌いで構成されています。



代表の古賀廣明さん



皆で楽しく練習しています

「バンド結成のいきさつはそろそろ定年を迎えるというときに、昔バンドをやっていた仲間から、もう一度バンドをやらないかと言われて、老後も考えて結成しました。30年やってきてよかったです。楽しいし、やりがいがあります。最初の頃は、ダンスミュージックなどを中心にやっていました。そうしたら、歌わせてくれと言う人が出てきました。歌い手のために演奏

をしていますと歌い手がどんどん上手くなっていく、それが楽しくて、やりがいになっていきます。私たちは演奏や歌の上手さを競うバンドではありません。演奏は歌い手に合わせ、歌い手は演奏に合わせ、歌うのです。だから楽しいんだと思います。

「町民の皆さんに一言
ぜひ練習を見に来てほしいです。上手い下手、関係なく、楽しく歌いましょう。」



稲葉さん

相馬さん



前田さん

萩原さん

練習日
第1・2・4水曜日
場所
奈良本公民館

「取材を終えて演奏者から生まれる音は、とてもやさしい音でした。その音が演奏者と歌い手を繋いでいる。やさしさと楽しさに溢れた皆さんでした。」

編集後記

9月定例会では前年度の決算審査が行われた。各事業が正しく執行されたかはもちろん、実施された事業が実際に効果的だったのか、費用面から見た時の効率はどうか等、様々な視点からの検証が求められる。またその結果が次年度の計画にどうフィードバックさせるのかという点も含め、経験を重ねるほど、その意味合いの重さを実感するようになった。

東伊豆町の将来に少しでも良い影響を与えられるよう、議員一丸となって、しっかりと取り組んでいきたい。

(稲葉)

議会広報編集委員会

委員長	栗原京子
副委員長	稲葉義仁
委員	山田豪彦
委員	鈴木伸和
委員	笠井政明
委員	内山慎一